



TOYO
UNIVERSITY EXCELLENT
EDUCATIONAL ACTIVITY
AWARDS 2024



東洋大学
優秀教育活動賞
受賞者紹介



優秀教育活動賞とは



東洋大学優秀教育活動賞は、2017（平成29）年度に新設された制度です。
本学で実施されている優れた教育活動（各学部の授業科目および授業に伴う教育活動）を企画実施し、学生に大きな教育効果を与えた専任教員を表彰したたえるとともに、FD活動などを通じて、優れた取り組みを全学に普及させるためにスタートしました。
この表彰制度が学内のすばらしい取り組みに光を当てるきっかけとなることが期待されます。

2024年度受賞者

氏名	所属	タイトル
永井 晋	文学部 哲学科	「宗教学IA」 秘教とは何か ―ユダヤ神秘主義カバラ―
長谷川 祐平	文学部 史学科	「歴史学入門」
小林 伸	経済学部 経済学科	「経済特講Ⅶ（協力ゲーム理論）」
根岸 謙 石塚 智佐 井上 貴也 上田 知亮 大坂 恵里 大野 悠介 小野上 真也 北岡 大介 周 圓 多田 英明 太矢 一彦 早川 和宏 松田 正照	法学部	専門科目への扉 「特殊講義IF1」
福田 晶子 榊原 圭子 橋本 剛明 大高 瑞郁 尾崎 由佳 桐生 正幸	社会学部 社会心理学科	初年次教育プログラム 「社会心理学基礎演習」
山田 香織	社会学部 国際社会学科	「ドイツ語ⅡA/B」
ハント ジェームス リトルトン ジョージ アダム ジョーンズ マーク	国際学部 グローバル・イノベーション学科	Comprehensive English Classes 「Comprehensive English I1」「Comprehensive English I3」「Comprehensive English II1」 「Comprehensive English II3」「Comprehensive English IV3」「Comprehensive English V1」 「Comprehensive English V2」「Comprehensive English V3」
藪長 千乃	国際学部 国際地域学科	能登ゼミ 創造的復興に向けた地域住民と学生の取組 「国際地域学研修（能登研修）」
小柴 和子	生命科学部 生命科学科	「病態生理学」
宮田 佳奈	生命科学部 生物資源学科	「基礎生物学演習」
井上 広子	食環境科学部 健康栄養学科	「栄養教育論実習」
神場 知成 浅野 泰仁 川原 亮一 カン エム ファヒム フェルドウス 後藤 尚弘 玉野井 豊 中村 周吾 廣瀬 弥生 別所 正博 本多 泰理 椋 計人 矢代 武嗣 石川 知一 加知 範康 満永 拓邦	情報連携学部 情報連携学科	「情報連携チーム実習Ⅰ・Ⅱ」
荻野 剛史 小野 道子	福祉社会デザイン学部 社会福祉学科	「社会福祉国際体験演習B」 「社会福祉海外研修A」
竹村 瑞穂 安達 玄 奥村 拓朗 新谷 昂 小木曾 湧 萩原 卓也 加藤 真未子 細川 佳能	健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科	「健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」
芹澤 奈保	健康スポーツ科学部 栄養科学科	「栄養と心理」

ご挨拶



優秀教育活動賞の受賞、誠におめでとうございます。2024年度は15件、これまでで最多の56名の先生方が対象となりました。受賞された先生方の担当科目は、専門への入り口となる科目やゼミナール、そして実習や演習というように、その多様性が特徴となっています。目まぐるしく変化する社会にあって、課題を正確に把握するためには、深い洞察力が求められます。その洞察力を磨くためには、先生方の専門的なそして温かなご指導が必要だと思います。基礎から実践への応用まで、それぞれの局面で、学生たちが失敗を恐れずに挑戦できる学びの環境を整えてくださっていることに深く感謝申し上げます。

選考委員長・学長 矢口 悦子



受賞者紹介

文学部
哲学科

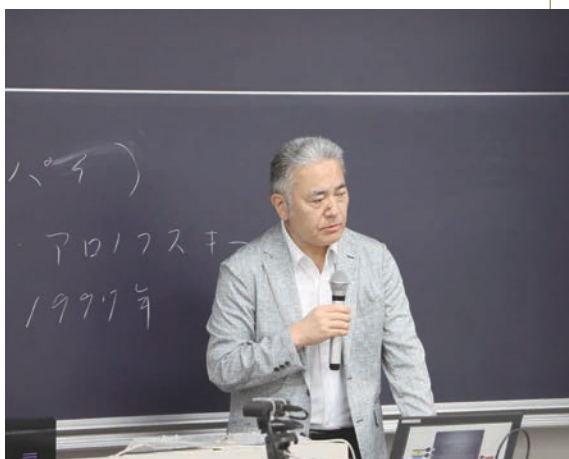
教授

永井 晋



「宗教学ⅠA」

秘教とは何か — ユダヤ神秘主義カバラー —



受賞授業・教育プログラム

この授業(宗教学Ⅰ)では、春学期にユダヤ教、主にその神秘主義の説明を行っています。それらは多くの場合、キリスト教の側から解釈され、また巷間に流布している偽の情報によって誤解されています。それらの誤解を解いて正確な知識を与えることを目指してきました。それを基にして、秋学期にはユダヤ教から発生したキリスト教とイスラームの一神教、および仏教、道家思想など東洋の秘教や神秘主義について比較宗教学的に論じてきました。

受賞者からのコメント

この授業は、ユダヤ教、とくにその神秘主義(カバラー)という極めて難解なテーマについて、単に歴史的な知識を与えるのではなく、私自身がパリ留学中、五年にわたってユダヤ教のラビから直接学んだ経験に基づいて語ってきたものであり、他に例を見ない授業であると密かに自負してきました。それをこのたび優秀教育活動として認めていただいたことは大きな喜びです。これまで長い間興味を持って聞いてくれた学生たちにも感謝したいと思います。



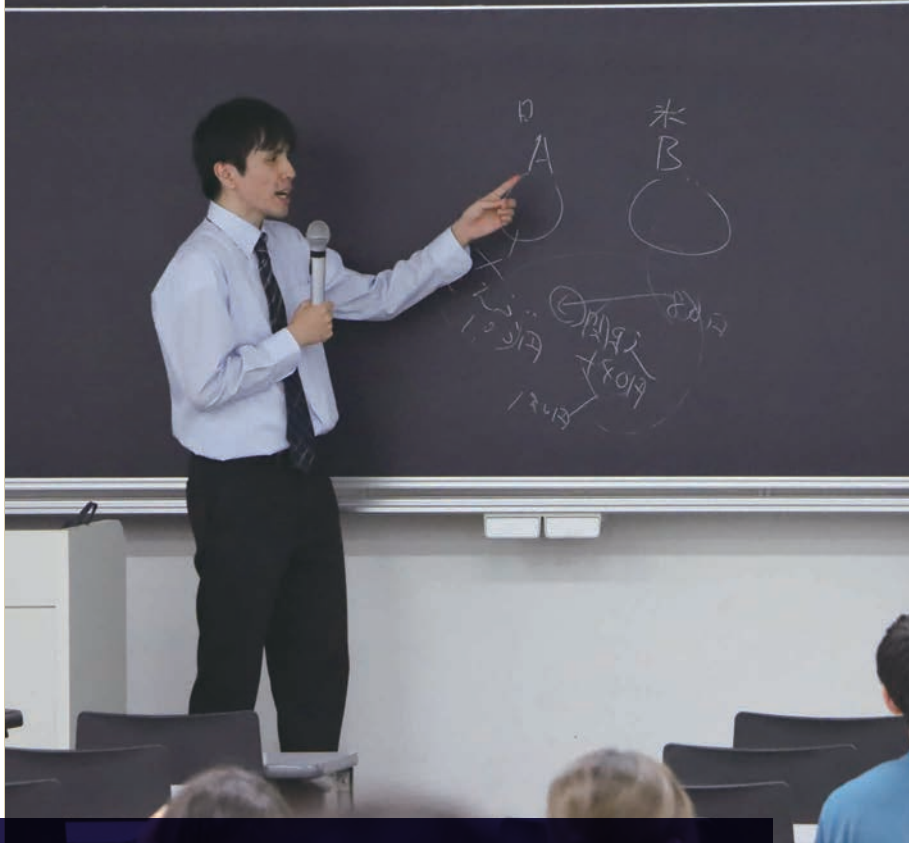


受賞者紹介

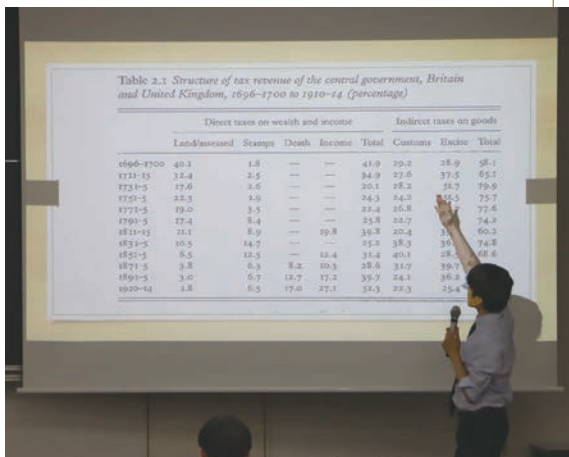
文学部
史学科

助教

長谷川 祐平



「歴史学入門」

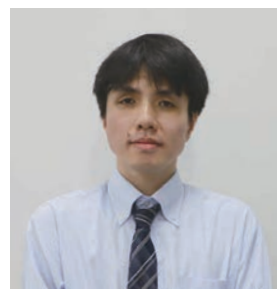


受賞授業・教育プログラム

「歴史学入門」は文学部史学科の新入生向けの必修授業です。史学科の専任教員が各一回は自身の研究に関連する内容の授業を行い、助教がそのとりまとめ役を担っています。教員側は、自己の専門分野の「面白さ」の一端を学生と共有して、大学での歴史学の学びへの意欲をかきたてることを目指しています。また様々な時代・地域の研究に触れてもらうことで、歴史学の持つ多様性を感じ、今後自己の専門性をどこに置いて勉強していくか考える機会を学生に提供しています。

受賞者からのコメント

昨今の世界では、フェイク交じりの情報を拡散して人々を政治的に動員しようとする動きが蔓延しており、残念ながら「歴史」はそのために悪用される手段の筆頭になってしまっています。こうした状況下、歴史を真摯に学問として勉強した経験を持つ学生を社会に送り出す史学科の役割はますます重要になっています。「真摯」に歴史に取り組むことが実は一番「面白い」、ということを学生に伝えるべく日々思い悩んでおりますが、今回そうした試みの一つを評価していただき大変光栄に感じております。





受賞者紹介

経済学部
経済学科

助教

小林 伸

特講Ⅶ(協力ゲーム理論) ゲーム理論の基礎的内容を学ぶー 第11回

(Least Square Values, 最小二乗法)を簡単に扱います。

の元での提携 S の不満 $e(S, x) := v(S) - \sum_{i \in S} x_i$
で最大の不満を最小化し、最大の不満が最小化された場
不満を最小化し、というプロセスで到達した準配分の集合
ふ。

各差原理を体現する解であるとされている:
不平等は次の二条件を満たすように編成されなければなら
平等が最も不適な人との期待便益を最大にすること、
の均等という条件のもとで全員に開かれている職務や地位
けに不平等をとどめるべきこと」(ジョン・ロールズ著、川本隆
訂版)紀伊國屋書店、2010年、p.114)



「経済特講Ⅶ(協力ゲーム理論)」



受賞授業・教育プログラム

本講義は経済学科3年生以上を対象とした協力ゲーム理論の専門科目です。具体的な問題を手計算で解けるようになることを目標としております。計算があまり得意でない学生にとっても取り組みやすいように、毎回ToyoNet-ACE上で基礎的な小テストを課しております。重要な解の中でも特に「仁」については、システムティックに計算してもらえるようにスライドを工夫しております。また授業中の教え合いも推奨しております。

受賞者からのコメント

この度は栄えある優秀教育活動賞を賜りまして大変有難く存じます。推薦してくださった学科の先生、教務課の皆様、選考に携わってくださった本学の皆様に感謝申し上げます。本講義は現実的な例を扱うわけではなく、ひたすら手計算をしてもらう形なのですが、幸いにも多くの学生に履修してもらっております。春学期の限られた時間の中で出来るだけ多くの発展的内容にも触れてもらえるよう、今後も授業の進行を工夫したいと存じます。





受賞者紹介

法学部

根岸 謙	(准教授)
石塚 智佐	(教授)
井上 貴也	(教授)
上田 知亮	(准教授)
大坂 恵里	(教授)
大野 悠介	(准教授)
小野上 真也	(教授)
北岡 大介	(准教授)
周 圓	(准教授)
多田 英明	(教授)
太矢 一彦	(教授)
早川 和宏	(教授)
松田 正照	(准教授)



専門科目への扉 「特殊講義 I F 1」

受賞授業・教育プログラム

「専門科目への扉」は、フルオンデマンド形式において、13名の法学専門科目の教員がオムニバス方式で各自の専門について、法学部1年生向けに語りかける形式の講義となっています。本科目では、各専門科目の概括的な内容を最初に示し、そのうえで担当教員がその分野に関心をもったきっかけや、研究における面白さ、その分野の学び方、実社会とのつながりなどを語る構成となっており、法学の専門科目への学生の関心を高めることを主たる目的としています。ゼミの志願理由でも、この科目を挙げる者も多数いて、一定の成果を上げているものと思われます。

【講義の目的・内容】

本講義は、主として1年生を対象として、大学生活の早い段階で、法学部での多様な専門科目を知ってもらうことを目的としています。それぞれの専門科目は、学生諸君が想像しているよりも遙かにその内容は深く、知れば知るほど面白みが増します。学生諸君には、まず、そのさわりの部分を感じてもらいたいと思っています。

本講義は、オムニバス方式で行い、合計13名の先生から、それぞれの専門科目について語っていただきます。最初に、ご専門の科目の概要をお話いただき、先生が当該科目を研究されようと思われたきっかけやご研究のなかでどのような点に面白さを感じておられるのか、これまでの講義等を通じて、学生への勉強方法などのアドバイスなど、先生方のご経験談なども交えながら、オンデマンドで講義を行っていただきます。シラバスだけでは、なかなか伝えられない、先生方の学問への想いを学生諸君にお伝えできればと思っております。

【講義スケジュール】

第1回 ガイダンス (太矢一彦 教授)	第9回 労働法 (北岡大介 准教授)
第2回 民法 (根岸謙 准教授)	第10回 刑法 (小野上真也 教授)
第3回 憲法 (大野悠介 准教授)	第11回 西洋法制史 (周圓 准教授)
第4回 比較契約法 (太矢一彦 教授)	第12回 経済法 (多田英明 教授)
第5回 国際法 (石塚智佐 准教授)	第13回 行政法 (早川和宏 教授)
第6回 会社法 (井上貴也 教授)	第14回 刑事訴訟法 (松田正照 准教授)
第7回 国際政治学 (上田知亮 准教授)	第15回 まとめ (太矢一彦 教授)
第8回 環境法 (大坂恵里 教授)	

受賞者からのコメント

このたびは名誉ある賞をいただき、大変光栄であるとともに、深く感謝しております。新型コロナウイルスの影響で、リモート講義も長引くなか、何人かの教員と話していると、リモート講義においては、講義内容そのものの教授に大きな支障は生じていないものの、講義内容に付随するような話を講義中に挟み辛く感じており、学生との交流が希薄になりがちだとの話が多くありました。そのことから、何名かの先生と相談し、学生の興味関心を高めるために企画したのがこの科目でした。当初は、コロナ期間のみを想定していましたが、受講生は年々増え、学生の評判も良いようで、今年度からは規模を拡大して、新しい先生も多く加わっていただく形で運用しております。





受賞者紹介

社会学部
社会心理学科

福田 晶子（准教授）

榊原 圭子（教授）

橋本 剛明（准教授）

大高 瑞郁（准教授）

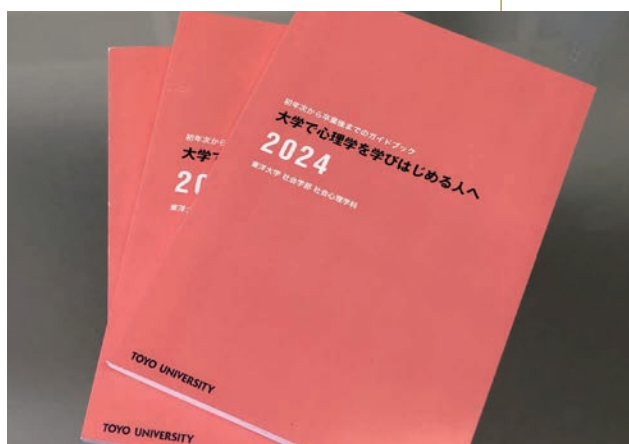
尾崎 由佳（教授）

桐生 正幸（教授）



初年次教育プログラム 「社会心理学基礎演習」

※2025年度より「社会心理学ゼミナールI」と名称変更



受賞授業・教育プログラム

社会心理学科では、初年次教育プログラムとして以下の教育活動に取り組んでいます。1)「社会心理学基礎演習」(新カリキュラム科目名「社会心理学ゼミナールI」)を開講し、初年次導入を目的とした授業を行っています。2)テキスト「大学で心理学を学びはじめる人へ：初年次から卒業後までのガイドブック」を作成し、上記科目の教科書として使用しています。3)新入生歓迎行事を兼ねたToyo Global Leader Camp (TGLキャンプ)を実施しています。

受賞者からのコメント

栄誉ある賞を賜り、担当教員一同、光栄に思います。当学科では初年次導入教育を重視しており、このたび、その取り組みについて高く評価していただいたことを、大変嬉しく感じております。今後もひきつづき教育の質の向上に励み、学生が大学生活を円滑にスタートできるように、学部4年間の学びに意欲を持って取り組めるように、そして卒業後のキャリアまでつながる学修成果を得られるように、手厚くサポートしていきたいと願っています。





受賞者紹介

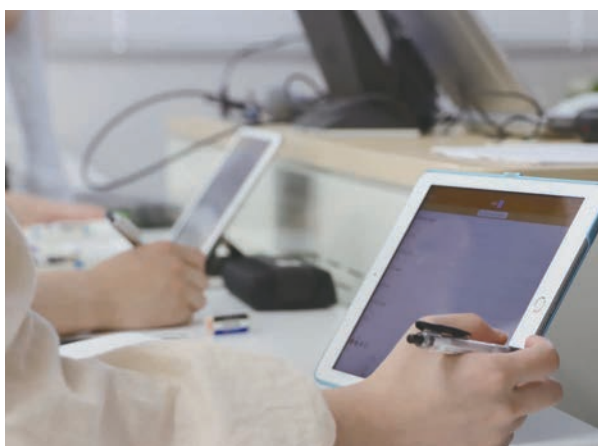
社会学部
国際社会学科

准教授

山田 香織



「ドイツ語ⅡA/B」



受賞授業・教育プログラム

社会学部開講の「ドイツ語ⅡA/B」は、初歩レベルのドイツ語コミュニケーション力養成を目的とした科目である。そのため学習者がドイツ語を使う（読む・聞く・話す・書く）ことに重点をおき、ペアワークも多く取り入れている。2024年度は、聴覚障がいのある学生の受講があったことから、情報保障をおこないながら、これまで同様にペアワークを中心とした学習機会を提供した。情報保障には音声文字化システムや機器（PowerPoint365字幕、UDトーク）を活用し、学生スタッフの支援も得た。ペアワークでは筆談やUDトークを用いた。UDトークの使用は、聴者の学生の発音練習にも大変役立った。

受賞者からのコメント

このたびは名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じております。ご推薦くださった皆様、そして日頃より授業運営を支援して下さる方々に心より御礼申し上げます。上記科目の運営を通して、私は学生同士のコミュニケーションが極めて多い語学科目は、外国語学習の機会であると同時に、コミュニケーションの方法や振る舞いかたを実践的に学ぶ場としても有用であると実感しました。こうした学びの経験は、共生のための感覚を育むことにもつながるのではないかと考えています。今後も学生との対話を大切にしながら、よりよい授業づくりに努めてまいります。





受賞者紹介

国際学部
グローバル・
イノベーション学科

ハント ジェームス(教授)
リトルトン ジョージ アダム(講師)
ジョーンズ マーク(講師)



Comprehensive English Classes



受賞授業・教育プログラム

Comprehensive English I~VI is taken by all 1st year domestic students. These courses prepare students to transition more readily from high school programmes in High School taught in Japanese to those at university taught in English. Additionally, the courses prepare students to understand technical and academic content and to gain an IELTS score of 5.5 or higher. In Spring Semester, students work hard not just on English but also on working independently and as part of a group and on trying new ways of studying in order to achieve success.

受賞者からのコメント

We are very honoured to receive such a prestigious award. The English programme in GINOS is not only important for students' international exchange but for general academic English skills in content classes. The teachers and coordinating professor have planned step-by-step toward the goals of the students and the department. Comprehensive English is based upon the teachers' English knowledge and background in order to motivate students more and allow them the opportunity to develop their skills. As such, students themselves develop and gain knowledge of their chosen field of study.





受賞者紹介

国際学部
国際地域学科

教授

藪長 千乃



能登ゼミ

創造的復興に向けた地域住民と学生の取組
「国際地域学研修（能登研修）」



受賞授業・教育プログラム

国際地域学研修（能登ゼミ）では、10年以上にわたって高齢化と人口減少が極度に進む石川県志賀町稗造地区の集落の調査や記録、秋季祭礼（お祭り）や太鼓の演奏などの伝統文化継承の手伝い、森の保全活動や米作りなどに携わり、経験を通じて学生たちが重層的な学びを深めています。令和6年能登半島地震では、活動してきた集落が被災しました。そこで2024年度は、研修だけでなく災害ボランティアとしても学生たちとともに数度にわたって現地に入り復旧・復興活動を行いました。また東京での復興支援イベントを手伝い、被災地の状況を報告しました。

受賞者からのコメント

学生たちが手伝うお祭りの日は、美しい里山にある川を挟んだ二つの集落が神輿を出し、古くから伝わる唄を唄いながら担ぎぶつけ合う、年に一度のにぎやかな一日です。途絶えていたお祭りを本学の教員が学生とともに復活させ、私自身は3年前から担当しています。コロナ禍、震災と途絶の危惧が相次ぎましたが、集落の方たちと励まし合い、昨年も実施することができました。いつも懐深く迎えてくださる能登の皆さま、能登ゼミを作上げた先生方、能登で繰り広げる様々な活動に好奇心を持ってエネルギーに取り組む学生たちと共にいただいた賞だと思います。





受賞者紹介

生命科学部
生命科学科

教授

小柴 和子



「病態生理学」



受賞授業・教育プログラム

「病態生理学」は、生命科学部応用生物科学科3年の選択必修科目、および生命科学科の選択科目です。本講義では、様々な疾患の病態形成のメカニズムについて学び、ヒトの病気の成り立ちについて理解を深めることを目的としています。授業では、身近な話題を取り上げながら、学生が自身の健康について考えられるようになること、また、毎回の小テストを通して、学んだ知識を整理し、自分の考えを文章で表現できるようになることを目指して取り組んでいます。

受賞者からのコメント

優秀教育活動賞という素晴らしい賞をいただきましたこと、大変嬉しく思うとともに、この賞に相応しい教育者であるよう、いっそう精進していかなければと身の引き締まる思いでもあります。学生には、この授業を受講することにより、いざ病気になったときに医師からの説明を正しく理解できるような知識を身につけてほしいと願いながら授業内容を考えています。知的好奇心が刺激された、役に立ったと感じてもらえたら何よりです。





受賞者紹介

生命科学部
生物資源学科

助教

宮田 佳奈



「基礎生物学演習」



受賞授業・教育プログラム

基礎生物学演習は初年次教育の1つとして、中学や高校での学びと大学での専門科目の間をつなぎ、更に発展的な授業での理解を円滑にする事を目的としています。本科目では、いわゆる座学やプリントを用いた演習に加え、授業のトピックに関連し、作業型のグループワークや、簡単な実験、実物に触れる機会など、授業の内容理解を深めるアクティビティを毎回実施しており、楽しく学べる授業を提供しています。

受賞者からのコメント

この度は本授業に対して優秀教育活動賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。受講者の多くは1年生なので、生命科学に苦手意識を持たずに、必要な知識を楽しく身に着けられるよう創意工夫しております。また、大学は「受験のための生物学」から、「学問としての生物学」へと切り替えていかなければならない場ですので、高校の教科書にとらわれずに広く教えています。本授業が学生自身の興味関心を探すきっかけとなったなら幸いです。





受賞者紹介

食環境科学部
健康栄養学科

教授

井上 広子



「栄養教育論実習」

受賞授業・教育プログラム

栄養教育論実習は、行動科学理論やモデルを学んだ上で栄養教育を演習形式で実践し、管理栄養士としての栄養教育スキルを修得する実習です。学生自身が栄養教育の対象者のアセスメントをし、栄養教育計画書や学習指導案の作成、教材作成等を行います。すべての工程に対し、学生の個の知性や発想力を大切にし、きめ細やかな指導をしています。教材作成では、発想豊かでハイクオリティな教材も多く、学生の成長に感心しています。本実習を通してコミュニケーション力が身についたと話してくれる学生も多く、自信を持ってどんな対象者にも臨機応変に栄養教育ができる力を身につけられる実習の展開に努めています。

受賞者からのコメント

このたびは、名誉ある賞をいただきまして、大変に光栄に存じます。ご推薦いただきました先生方に心より御礼申し上げます。私は、健康栄養学科が発足して3年目に着任し、1期生から本実習を担当しております。自然豊かな板倉キャンパスから2024年に新生朝霞キャンパスへ移転し、栄養教育実習室も最新設備の整った明るい基調の実習室になりました。学生たちを管理栄養士として社会に送り出す責任ある教員の一人として本実習を通して、益々質の高い教育を実践してまいりたいと思います。そして本学の学生が管理栄養士として各分野で活躍し、研究力も兼ね備えた人財となるよう学生教育に努めてまいります。





受賞者紹介

情報連携学部 情報連携学科

神場 知成 (教授)

浅野 泰仁 (教授)

川原 亮一 (教授)

カン エム ファヒム フィルドウス (教授)

後藤 尚弘 (教授)

玉野井 豊 (教授)

中村 周吾 (教授)

廣瀬 弥生 (教授)

別所 正博 (教授)

本多 泰理 (教授)

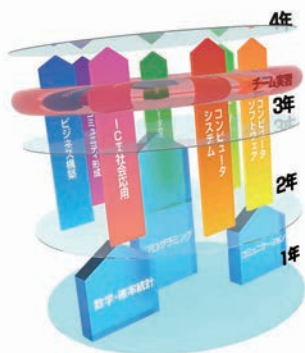
棕 計人 (教授)

矢代 武嗣 (教授)

石川 知一 (准教授)

加知 範康 (准教授)

満 永 拓邦 (准教授)



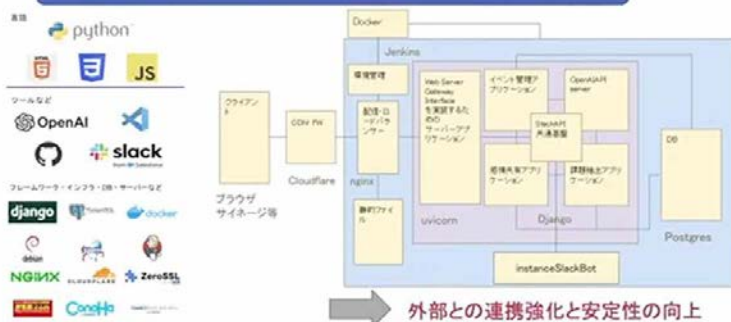
受賞者からのコメント

本実習は、情報連携学部の創設者である坂村健先生が、本学部のコンセプトを象徴する科目として設立され、着実に発展してきました。年度を重ねるごとに、プロジェクトに取り組む学生の意欲や活動レベルが一層高まっていることを、教員一同も実感しています。外部企業の方々からお褒めの言葉をいただく機会や、卒業生から「この実習がとても有意義だった」との声を聞くことも増えており、今回の受賞は、本学部に関わる全員にとって大きな励みとなります。



2.2 技術的工夫点

各種アプリケーションが連携して動作している



<https://www.iniad.org/>

「情報連携チーム実習Ⅰ・Ⅱ」

受賞授業・教育プログラム

私たちの「情報連携チーム実習」では、学部全体からさまざまな専門性を持つ10数名の教員が参画し、それぞれの専門性を活かしながら実習の質向上に向けて連携しています。異なる専門を学ぶ学生たちが小チームを組み、実社会の課題解決に1年かけて挑戦するこの実習では、教員はアドバイザーとして学生の成長を見守ります。毎年設定する共通テーマ（2024年度は「生成AIの活用」）が適度な競争心を生み、チームごと独創的なアイデアが生まれる環境を創出しています。また、Slack上の「知恵共有の場」では、チームを超えたオープンな協力文化を醸成しています。この実習を通して培われる連携力は、学生の就職活動や卒業後のキャリアに大きく貢献しており、卒業生からも「社会で最も役立つ経験」との声を多数いただいています。教員自身もこの実習を通じて本学部の「連携」理念を具現化する、象徴的な教育プログラムです。





受賞者紹介

福祉社会デザイン学部
社会福祉学科

荻野 剛史（教授）

小野 道子（准教授）



「社会福祉国際体験演習B」 「社会福祉海外研修A」



受賞授業・教育プログラム

2024年度の社会福祉海外研修は、ネパールに渡航しました。事前学習では、ネパールについて学び、日本の文化や福祉に関する発表資料を準備しました。現地では、トリバン大学ソーシャルワーク学科の学生たちとの学び合いや交流、国連、JICA、NGOなどへ訪問し、貧困や環境、災害復興の取組について学びました。農村滞在では、地域の方々との交流や湯や水が自由に使えない生活も体験しました。事後学習として報告書や動画を作成し、赤羽台祭での有志によるネパール展示も企画しています。

受賞者からのコメント

このたびは大変栄えある賞を受賞させて頂き、大変光栄です。本プログラムでは一国における経済的貧困に対しミクロ～マクロの各アクターがどのような対応を行っているのか理解・体感し、参加学生自身が貧困撲滅の方法を考えられる形としています。今後もプログラムの内容を継続的に見直し・改善を行い、グローバル社会で活躍できる・グローバル社会の発展に寄与できる学生の育成に尽力する所存です。





受賞者紹介

健康スポーツ科学部
健康スポーツ科学科

竹村 瑞穂	(准教授)
安達 玄	(助教)
奥村 拓朗	(助教)
新谷 昂	(助教)
小木 曾 湧	(助教)
萩原 卓也	(助教)
加藤 真未子	(助教)
細川 佳能	(助教)



「健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」



受賞授業・教育プログラム

受賞致しましたこの授業は、「健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」という1年生の必修の演習となります。大学生となり、1年次に学んでおくべき基本的事項(健康スポーツ科学部の歴史や社会的背景、自校教育や大学の理念、施設見学やアカデミックライティングなど)についてクラス担任制のもと取り組んでいく科目です。愛校心の醸成、仲間意識や帰属意識を高めるために、哲学堂公園の訪問やTOYOスポーツ観戦など、学外研修活動も実施しています。

受賞者からのコメント

この度は、「2024年度東洋大学優秀教育活動賞」の受賞を賜り、大変光栄に存じます。1年生の基礎演習は、初年次教育としても重要な役割を担っており、東洋大学における4年間での学びをより深化させ、充実させていくために取り組んでまいりました。“健康・スポーツの”価値のみならず、“健康・スポーツを通した”さまざまな価値創生や社会に貢献できる人財を育てていくために、今後も努力していきたいと思います。改めて御礼申し上げます。





受賞者紹介

健康スポーツ科学部
栄養科学科

助教

芹澤 奈保



「栄養と心理」



受賞授業・教育プログラム

「栄養と心理」は、「食べる」という身近な行動を、行動科学的視点から捉え、感覚・知覚、認知、動機づけなどの理論を通じて食行動の背景を理解する講義です。色彩と味覚、情報環境と食選択といった日常とのつながりを実感できる内容を中心に、グループワークを通じて主体性を育み、学びへの関心を高めてまいりました。多角的な視点から考察する姿勢を養い、得られた知見をもとに問いを立て、実生活への応用力や課題解決力の向上を目指しています。

受賞者からのコメント

このたびは、名誉ある賞を賜り、身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました栄養科学科の先生方をはじめ関係の皆様
に心より御礼申し上げます。「食べる」という行動を通じて学生が自ら問いを立て、学術と生活を往還する視座を培う授業を
目指してまいりました。今後も東洋大学の建学の精神である『智徳兼全』を胸に、学生の主体的な学びを支え、学びの楽しさ
や探究の面白さを伝えられる授業づくりに一層努めてまいります。





2024年度 東洋大学優秀教育活動賞 表彰式
2025年8月1日(金)

於 東洋大学 白山キャンパス 125記念ホール

